

Dr. N のピーナッツを探る

(4)

戻ってきたピーナッツ

先日、久しぶりに香港に行ってきましたが、離陸後しばらくして飲み物と、ピーナッツが提供されました。ピーナッツを見て感慨ひとしおでした。というのは、飛行機から一斉にピーナッツが消えていたからです。「ピーナッツが戻ってきました！」と小躍りしました。

「ピーナッツアレルギー」が理由で飛行機から一斉に消えたのです。当時、どう言うわけかピーナッツアレルギーが大騒ぎされました。最近、学生の逸話として、高校生時にスポーツ部活の先生から、ピーナッツは毒だ、食べるな、と指導されたと聞いたことがあります。

食物にほとんど人が何らかのアレルギーを持っています。食物アレルギーは、日常多く食べる、たんぱく質に富んでいる、食品に多い原則があります。日本人では卵、牛乳、小麦が三大アレルゲンです。でも、毒だ、食べるな、とは誰も言いません。

ナッツも例外でなく、全種アレルギーがあります。でも、ナッツは食べるなどは誰も言いませんが、どういうわけかピーナッツはアレルギーの権現と目の敵にされています。私の考えでは、ピーナッツの普及率が圧倒的で。患者も圧倒的が多かったからでしょう。ピーナッツ＝アレルギー＝危険が、強く洗脳され消費量が減少してきました。次第にアーモンド、クルミに市場が奪われ、今では後塵を拝する状況です。

飛行機内での戻ってきたピーナッツは洗脳が消えつつあることを物語っています。調べてみるとピーナッツを提供する飛行機会社が10社以上に上っています。

アレルギー対策は自分でアレルギーを知り、事前にアレルギー届けをする、もしくは食べないようにする自己自衛が唯一です。近年では少量ずつ食べて反応を減らすという方法が自己防衛策の主流になりつつあります。

以上